IPEJ-KNK

きんきしぶだより

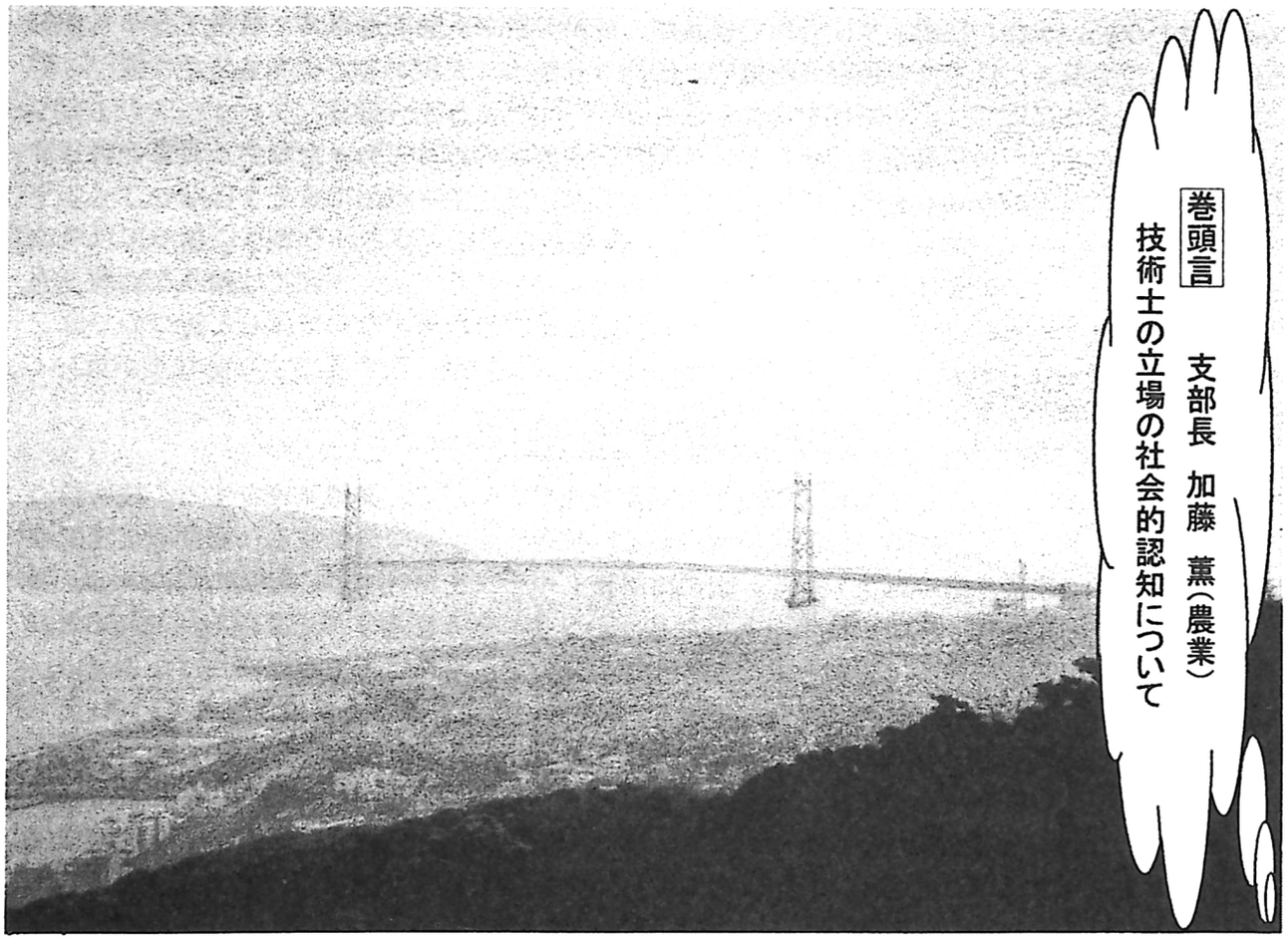
IPEJ-KNK

(社) 日本技術士会
近畿支部

No 61
2001-10-15

IPEJ-KNK

Will be opened to the home page.



巻頭言

技術士の立場の社会的認知について

支部長　加藤　薫（農業）

背景：明石海峡大橋

総工費５０００億円、10年の歳月をかけ、平成10年4月5日完工した明石海峡大橋は、全長３９１０m、２基のタワーは高さ３００mに及び、その間隔は１９９０m、世界最大の吊り橋であり、まさに20世紀を飾るに相応しい世界一の技術を誇っている。

あれから３年、数々の技術者達の夢と苦闘のドラマを秘めた橋は、重要な交通機間として、その役割を果たしつつ、すっかり周囲の風景に溶け込んでいる。舞子からは巨大な偉容で人々に迫り、須磨山上からは、遠く淡路島と一体になって優雅な姿を見せてくれる。上の写真は須磨鉢伏山展望台から撮ったものです。

高橋　哲威（化学）

巻頭言

技術士の立場の社会的認知について

支部長　加藤　薫（農業）

技術士資格は精一杯活用したいものである。また活用されたいものである。Ｐｒｏｆｅｓｓｉｏｎａｌ　Ｅｎｇｉｎｅｅｒを名乗るようになったので、何か気合が入ったはずだが、社会での認知が足らないような気がする。それは、ちょうど昨今の国政で強力な宰相の雄図を示されても、証券筋が一向に乗ってゆかないのに通ずるようにみえる。真髄が見えない。

技術士は社会的に認知されようが少ないとの声がしきりである。しかし活用されないと嘆くのは当たらない。技術士の真髄を見せるのが先決だろう。霞んでいる技術士像を鮮明にしてからのことにしよう。途は自ずから開けると私は思う。

①　技術士という個人は、普通は部門表示しかしないので、手放しでは内容まで世間に理解されるわけがない。また、技術士集団各種の場合は、技術分野が多角的過ぎて、活用するにもされるにも却って全貌または本性が理解され難い。医師、弁護士、弁理士などよりも分かり難い。単に技術士と称するだけでは、名が体を表わしきれない。

②　この資格自体が職業資格であったり、技術レベル表示の称号であったりする異質の両分野を抱えこんでいる。こういう制度上の混迷状態もよくないが、中々脱出できそうにない。

③ 職業資格については、今春技術士制度が国の文部科学省に直轄されるようになって以来、活用領域を広げるように各省庁は努力してくれていると聞いている。他力本願では頼りないが、そういう期待もある。それ以外の特権業務に無縁の技術士は、自助努力なしで座して待つのでは三顧の礼を以って迎えられたりはしない。技術士は社会、産業界でも、教育界ですら認知度が低いし、理解も薄いのが実状である。

④ そこで自省の種を並べてみる。

専業技術士について考えると、自分の技術士業務で成果を挙げる。業績発表をする。技術誌に自論を述べる。著書を出版する。公開講演会に出る。技術セミナーで活動する。海外の業務に乗り出す。産官学の提携の場に打って出る。技術士事業グループを結成する。ＰＲには口コミ、マスコミも、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞも使う。その他何があるだろうか。多々あるだろうが上記のあれこれにどれほど力を注いだか？即ち社会に認知を求めてきたか自分の胸に手を当ててみなければならない。

⑤ さらに、技術士資格を持つ立場は、企業内と専業という全く異なる２つに別れている。

まず、企業内の技術士ならば、企業の一歯車である場合が多い。その総括者であったりもする。この場合は技術士の内容はもとより企業から十分理解されている。しかし、例外が多くて、企業の歯車とはなり難い産業分野が多い。そこでは企業内での活路開拓には多大の努力が必要である。それでもＰＥに徹することができれば、技術士の真価を発揮する大切な場ができることになろう。

次に、専業技術士ならば、個人やグループで活動しているから、言わば産業界の一歯車と捉えてもよいだろう。当然チーフであったりもする。ただしこの歯車は相手が不特定多数なので、かみ合う相手が簡単には見つかるものではないから苦労する。

⑥ だからこの際、個人技術士についてもっと徹底して分析しておくのが必要ではないか。特性を挙げてみる。立場が各人各様であって、決して一様ではない。行動の仕方は自由。従って、行動を軍隊や企業員と同様に一元化したり統制されたりしない。しかし、必要なら相互に自在なリンクができるというユニークな特性を秘めている。

専業技術士というＰＥの業務形態は、多くは技術士事務所を名乗り、その他の名称も名乗るが、法人として、社団法人、株式会社、合資会社、協同組合まである以外に、任意団体に至っては技術士センター、技術士協会、技術士懇話会、技術士懇談会と構えが多様なものだから、外部の人々

からは名刺、看板一枚から業務内容を読み取ってもらい難いが、これは別段致命的でも何でもない。

⑦ 活用主に対する最大の問題は、事務所の形式よりも内容や姿勢である。ＰＥの資質をどこから読み取ってもらえるか。既に述べたとおり、業務の実績、社会に対しての日常の行動、発言が大切である。これら無しには、評価されるはずがない。公告をする自由があり、メデイアがある。または幾分消極的でも他人の推挙、推薦も受ければよい。場合によっては、相互の適切な推薦も有効である。それも決しておかしくはない。

⑧ 時代の流れは、本来の技術力の他に技術士は、私益、社益中心から、公益、国益、ＡＰＥＣ益、人類益、生物益、地球益までも念頭にあるという時代に移っているのであろう。足並みはまだまだ揃っていないのだが、ここらで、先んじて進化して時代の旗手となる気概を示すべき時である。

⑨ パワーでは多分壮年層が最強力であろうし、高齢者は一歩譲ることになる。けれども一面、経験、年齢に応じて技術上の視野が広くなり、経済上の執念から開放されるにつれて、自ずから社会を指向する人になる道が開けているのではなかろうか。

２１世紀になって、技術士が改めてバックボーンに技術士倫理を組み込んで社会に浮上し、ＰＥを名乗った。技術士倫理と言ってもそれはまだ曖昧で未熟な部分が多い。アメリカ的ＰＥをモデルとしているようだが、今やそれも日進月歩の技術の国際社会では、最早完全無欠ではない。自らの手で新しく鮮明な技術士像を描き直すべく論議を続けよう。外に向かっては技術士の真価を多角的にＰＲしつづけよう。

（２００１年９月記）

目　　次

		ページ
巻頭言：技術士の立場の社会的認知について　支部長　加藤　薫（農業）		3
平成13年度第3回理事会報告　理　事　西川　昭二（電気・電子）		4
第7回西日本技術士研究・業績発表年次大会報告		
★研修ツアー報告：　副支部長　稲本　渡（化学）		5～7
大会実行委員　武田　和忠（応用理学）		8
★参加者より　：　九州支部業務開発委員会委員　古川　博（古川建築研究所）		9
★裏方より　：　大会実行委員		10
平成１３年度技術士二次試験無事終わる　赤根　晴雄（機械）		11
論文紹介：		
２１世紀の子供たちへの情報技術と技術士のあり方　柏原　秀明（情報工学）		１２～１７
物作りにおける技術士とＩＳＯ審査員　岩田　義顕（経営工学）		１８～１９
繊維技術物語　谷本　義雄（繊維）		２０
私の旅だより：アジアーベトナム（ハノイ）　鎮　美香（非常勤）		２１～２２
部会予告・報告		２３～２６
広報委員会からのお知らせとお願い（その１）		１９
広報委員会からのお知らせとお願い（その２）		２７
公告・編集後記		２８